

第18回 岩内町地域公共交通活性化協議会 議事録

議 事 内 容

日 時	平成31年1月17日(木) 14:00～14:40
会 場	岩内町役場 3階 委員会室
出席者	22名(うち代理出席5名) 欠席4名 別紙出席者名簿のとおり
事務局	3名

1. 開会

2. 猪口会長よりあいさつ

本日は、ご多忙のところお集まりいただき、誠にありがとうございます。

各委員の皆様におかれましては、日頃から本町の「まちづくり」に多大なお力添え、ご理解をいただき、重ねて感謝を申し上げます。

本日の協議会では、いわない循環バス「ノッタライン」の平成29年10月から平成30年9月までの運行について事業評価し、事業の適切性や目標の達成状況、また、今後の改善点等についてご審議いただきたく存じますので、よろしく願いいたします。

簡単ではございますが、開会にあたってのご挨拶とさせていただきます。

3. 報告事項

1) 報告第1号 第17回岩内町地域公共交通活性化協議会の結果について

○事務局より資料に沿って説明

- ・第17回協議会の報告事項、議題等について報告

報告第1号 ⇒ 質疑なし

報告第1号 ⇒ 承認

4. 議題

1) 議案第1号 平成30年度協議会予算の補正について ⇒ 議案取り下げ

- ・当初予算において、千葉先生に対するアドバイザー謝礼を協議会2回分しか計上していなかったため、本日の協議会謝礼分2万6千円の補正を予定していたが、本日急遽、千葉先生が欠席されたため、補正の必要がなくなったことから、議案第1号については取り下げとなった。

2) 議案第2号 平成30年度地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(案)について

○事務局より資料1に沿って説明

- ・この事業評価は、平成29年6月の協議会にて承認いただいた「平成30年度地域内フィーダー系統確保維持計画」について、ノッタライン運行事業の実施状況の確認、評価を行うもの。
- ・「事業実施の適切性」については、計画どおり事業は適切に実施されたことからA評価とした。
- ・「目標・効果達成状況」については、事業の実施により、主に病院・公営住宅などの停留所を中心に多くの乗降者があり、高齢者をはじめ、住民の生活の足を確保することができた。また、一日あたりの平均利用者数は96人であり、目標の70人以上を達成できたことからA評価とした。
- ・「事業の今後の改善点」については、全体の停留所配置のバランスや各停留所の乗降人数の需要傾向の分析、利用者からの意見・要望を踏まえ、乗降人数の少ない便数の減便や運行ルートの変更などを検討する。また、事業運営を継続するため、車内有料広告の募集や運賃体系の見直しを行い、運行収入の向上を図る。

議案第2号 ⇒ 質疑なし

議案第2号 ⇒ 承認

5. その他

- その他.1 ノッタライン毎月の利用状況
- その他.2 ノッタライン毎月1便当たりの乗車人員
- その他.3 ノッタライン停留所別の乗降者数
- その他.4 ノッタラインの運行経費について
→ 事務局より資料に沿って説明

○ その他. 5 ノッタラインの乗車料金について

- ・ノッタラインの乗車料金は、平成 28 年度の運行開始以来、150 円としているが、運転手確保のための人件費の増加や、平成 31 年 10 月からの消費税率見直しに伴う運行経費の増加に対応するため、乗車料金の見直しを検討する必要があると考えている。見直しについては、利用料金の収支率や町負担額の見通し、既存路線バスの値上げ幅などを参考に進めていきたい。

【 質 疑 応 答 】

〈 委員 〉

- ・「(その他 4) ノッタラインの運行経費」について、平成 29 年度の収支率は他町村と比べて、平均的なのか、少ないのか、多いのか、もしわかったら教えていただきたい。

〈 事務局 〉

- ・収支率については、近隣町村からは 30～40%の間や、他の自治体でも 40%前後で運行していると聞いており、事務局としては、16.2%というのは他と比べるとかなり低いと思われまます。

〈 委員 〉

- ・協議会の資料をすべての自治体が公表をしているわけではないので、この場で他の自治体の状況を述べるわけにはいかないが、事業としては、まだ始めたばかりなので、今後、収支の改善というところも少し目標の中に入れていくことも一つある。収支率 16%は低すぎるかな、という印象を持ちます。

〈 委員 〉

- ・「(その他 1) ノッタラインの利用状況」についてですが、障がいを持っている方の乗車人員が 28 年度は 5,080 人、29 年度では 6,682 人と増えているが、新車両のノンステップバスに変えたということが増えている要因なのか。何か別に要因があるのであれば教えていただきたい。

〈 事務局 〉

- ・新車両のノンステップバスが導入されたのが平成 30 年の 7 月になります。導入後の乗車人員は増えている月と、減っている月があるので、ノンステップバスが導入したことによって増えたというのは、まだ数値的に効果は現れていないのではないのかなと思っている。また、新車両にはスロープがついているので、車いす

の方の利用については、事前にニセコバス(株)にご連絡をいただければ、スムーズに乗車できますということを周知して、利用率が伸びるように取り組んでいきたい。

○ その他. 6 旧岩内円山線 停留所別 1日当たりの平均利用者数

- ・平成30年3月末まで北海道中央バスで運行していた「岩内円山線」の一日当たりの平均利用者数を集計したもの。
- ・日帰り入浴や沿線住民の生活交通として利用されている傾向が伺われる。

○ その他. 7 円山循環交通の新たな交通体系のあり方について

- ・「岩内円山線」の廃止以降、町にはバス路線復活の要望が昨年12月末までに32件寄せられている。町としては、生活交通確保のための新たな交通体系のあり方を協議会の中で検討していきたいと考えている。
- ・円山循環交通の新たな交通体系の例として、ノッタラインと乗合タクシーを活用した4つの方法を記載。
- ・ノッタラインの運行については、運行時間が更に長くなることや、快速便運行のためには現状の8便から最低でも2便程度は減便しなければならないことなどから、利用者からの声や現状の1台体制では、現実的には難しいと考えている。
- ・乗合タクシーの運行については、岩内円山線での乗車人員から見ると車両の定員は見合ったものではあるが、利用人数の少なさは明らかであり、運行を維持していくためには一定の利用者負担と町の負担が必要となる。
- ・事業を始める上では、事業の引き受け先との調整や、実証運行などにより、効率的で適正な便数、時間帯、停留所などを決めていかなければならないため、今後、補助制度を活用した実証運行などを踏まえ、事業の検討に取り組んでいきたいと考えており、進捗等については、都度、本協議会に報告していきたい。

【 質 疑 応 答 】

〈 会長 〉

- ・旧円山線廃止に伴う影響等を踏まえて、今後新たな交通体系のあり方を協議会の中で検討していきたいということですが、このほかの交通体系などご意見ありませんか。タクシー事業者さんはいかかでしょうか。

〈 タクシー事業者 A 〉

- ・事業者として考えられる可能性があるのはデマンド型。予約があればなんとかできるかもしれない。今、乗務員は非常にひっばくしている。岩内ばかりではなく、全国的に。募集しても年に1人か、決まってもすぐやめてしまう。やれるのであればというのはそういう意味も入っている。

〈 タクシー事業者 B 〉

- ・同じ意見です。

〈 委員 〉

- ・補助制度を使って実証運行を行いたいと説明していたが、うまくいったらどんなスケジュールで、どんなことをやろうとしているのか、わかれば教えてください。

〈 事務局 〉

- ・補助制度については、国や道、他団体で行っている制度を色々模索している段階。現在は、市町村関係団体の補助で、地域公共交通に関する補助制度があるので、申請に向けて準備を進めている。イメージとしては、乗合タクシー事業のデマンド型か定時定路線型か、デマンド型と定時路線型をミックスする方法もある。利用人数等をしっかり検証して事業性を判断していかなければならない。補助制度を活用して新年度に向けて申請などにトライしていきたいと考えています。

〈 会長 〉

- ・円山循環交通の新たな交通体系の方法について、何かアイデアがありましたら参考にさせていただきたいので、事務局までご連絡をお願いします。

6. 閉会